

中国東北(北満州) 鉄路の旅「ハルビン・長春(新京)・黒河」の記憶 4

宮岸 清衛

黒竜江(アムール川)は水量少なく濃い青色だった、中国独特の黄茶色ではない。

外輪船はもうないそうです。船の後ろの外輪がバシャバシャと音をたてて進む風景は大きな川や湖の風物だが見られなかったのが残念でした。

黒河発 20:00 時の寝台列車は古い型式だが広く荷物置き場は大きかった、しかしベットのカーテンが無かった。

トイレは車両前後に和式?、洋式(椅子式)とあったが洋式は直接肌が触れる部分が汚く皆さん、和式(しゃがみ込み式)を使っていたようです。

9月22日ハルビン到着 あれ、新幹線と階号だ車両呼称も軟座車から一等座車に変わっていた。日本の初代内閣総理大臣が暗殺された場所を案内された、



日本人として複雑な気分だった。

案重根は韓国では反日のヒーロー、北朝鮮、中国などではあまり評価されていないようだ、我々日本人はどう評価すれば良しとするのか、ハルビン駅に暗殺の痕跡を残して歴史を語ってるだけ?



一九六三年から一九八四年まで、千円札に肖像が使用された。

ハルビン駅で乗り換えのため待合室へ沢山の人の動きが、さすが中国だなと感じ、添乗員から、手荷物は前に抱えて座るように言われた。ひたたくりに隙を与えないようにして下さいとのことでした。ごもっともだ!

時刻表を見ると南下は「北京」「大連」行きが多く北上

は「黒河」、西行きは「ハイラル」「満州里」からロシアへと、東行きは「牡丹江」「吉林」「チャムス」「延吉」等四方に伸びており鉄道の要はハルビンだと十分に理解できた。

和階号は日本の新幹線とまったく同じような雰囲気での乗り心地で静かだった。速度は速くはなかったのは在来線にそのまま走行しているためなのではないでしょうか。あの鉄橋から落ちて、いち早く開通した列車、大丈夫かなと思いつつは私一人ではなかったらしい。



寝台車(軟臥車) 4人



黒河～ハルビン間寝台列車、軟臥車のトイレ



伊藤博文初代総理大臣は此処ハルビン駅で(1909)朝鮮人案重根に暗殺された



長春駅までは2時間程で到着、長春（新京）は満州国時代の首都此処も人が多い、先ず旧満州国皇帝・愛新覺羅溥儀の宮殿を参観しました。1934年3月満州国皇帝として即位した人物です。

中には戴冠式の部屋が保存されており生活状況もあり、今は博物館として高句麗時代の収蔵品などが展示されていました。映画「ラストエンペラー」の舞台にも使われた場所です。日本人には知る必要のある歴史です。



偽満皇宮博物院（清朝末代皇帝）

散策途中満州の豚は「黒」色と言ってるとき、白、黒ブチの豚が現れ面目ない一場面がありました。日本は「白」色。

ところ変われば色々ありました。食事のとき、お箸は縦に置く、日本では横置き。取り皿は中国人は使わない。



アヘンを及引する皇后婉容

長春は旧満州国の首都のせいか当時の建築物が沢山現役として使われています。主とした建築物八つを「旧満州八大部」と呼んで活用されていました。

旧満州国国務院、旧満州国新京郵政管理局、旧大和ホテル等がありその他にもまだ、多く活用されているそうです。



旧満州国中央銀行
現中国中央銀行吉林省支店



旧満州国関東軍司令部
現中国共産党吉林省本部

当時の建築物を見て回るのも面白い観光になるでしょう。

長春には公園が沢山あります長春公園、南湖公園、彫刻公園、勝利公園（旧児玉公園）、児童公園、動植物公園など多く、緑が夏の花を沢山咲かせるそうです。そのひとつ長春公園（旧緑園）、あの動乱期に亡くなった日本人を葬った場所は避難した学校の運動場等あちこちに凍てついた土は掘ることもならず野積みされた。それらを長春市が集め、その遺骸は5万人にもおよんだ、また1948年の国府軍の籠城により中国人が餓死した5万人の遺骸は左側に埋葬されているそうです。今は綺麗に整地された公園になっていました。

公園には健康器具が老人たちの憩いの場所になっていた。私の弟妹3人は南湖近く丘陵地の畑の土饅頭の下にしたが、今の、吉林科技大学の向かい、だが、ビルが林立していた。



長春に来た日本人は必ず立ち寄り、緑豊かな日本を見ないで死んだ友に挨拶してほしい。

つづく